



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

平衡機能向上における学習の研究

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮田, 英雄 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12099/139 |

はじめに

日常生活において、姿勢を安定に維持し、運動を円滑に行うには随意運動とともに平衡機能の働きが必要である。その一つに平衡反射による静的、動的な運動調節があり、この平衡反射活動を訓練することで平衡機能を向上させ、日常の難しい動作や運動でも気を配ることなくできるようになる。平衡訓練による平衡機能向上はめまい・平衡障害者の能力低下の改善や社会復帰への促進のためのリハビリテーションに臨床応用されている。近年、高齢者社会を迎え、高齢者の運動能力および生活の質向上あるいは青少年やスポーツマンの運動能力の向上にも平衡訓練は必要になっている。今までに当教室では平衡機能向上の研究の1つとして視性訓練による研究がある。動物に視運動刺激を反復して与えることにより、単位時間内視運動性眼振数の増加 (response increase) を認め、視性平衡機能の向上として報告されている。また、球技選手の視運動刺激に対する眼の適応の限界の向上、視性訓練を行うことによる視性対象物追従能力の向上が報告されている。しかし、これらは視運動性反射学的な観察で、視性平衡機能向上の神経機構の解析はなされていない。また、国内外において、視性訓練による視性平衡機能向上に関与する物質についての研究はいまだ行われていない。本研究では、視性訓練による視性平衡機能向上の神経機構とそれに関与する物質を検討した。

研究組織

研究代表者：宮 田 英 雄 (岐阜大学医学部教授)

研究分担者：伊 藤 八 次 (岐阜大学医学部附属病院講師)

研究分担者：水 田 啓 介 (岐阜大学医学部附属病院講師)

研究経費

平成4年度： 800千円

平成5年度： 700千円

平成6年度： 600千円

計： 2,100千円